梅村学園三重中学校 体験メニュー その①

とべ動物園での環境学習

地球環境への関心学ぶ

プロの飼育員と動物触れ合いも

これまでさまざまな体験メニューが三重中学校との間で作り出されてきたが、平成19年度から実施しているものに、西日本最大規模を誇る行動展示型動物園の「とべ動物園」での体験学習がある。動物園での学びと言えば、園内の見学や動物への餌やりが一般的だ。しかし、とべ動物園の場合、一味違う。日本で初めて人工哺育に成功したシロクマ・ピース、アフリカゾウ、スローロリスが飼育されており、この動物たちのふるさとである北極やアフリカなどで起こっている地球温暖化や森林伐採、密輸問題などの環境学習も行っている。

動物たちの生き方を学ぶことも大切な勉強だ。常に動物たちのことを考えているプロフェッショナルの飼育員が、映像や人工哺育で使用した道具を使いながら生徒たちに動物の生態を真剣に語ってくれる。加えて生徒たちは飼育体験や餌やりも実施する。また、園が取り組んでいる汚水処理や堆肥処理といったリサイクル活動についても学習する。素晴らしい教育の場である、とべ動物園での体験学習は、生徒たちに人気の高いメニューとなっている。

西日本最大規模の動物園で環境学習や飼育体験を実施

飼育員から生態を学ぶ

梅村学園三重中学校 体験メニュー その②

愛媛大学で学ぶ先端研究技術

「大学」を肌で感じ取る

研究室の見学と分かりやすい授業

平成21年度には2つの体験メニューが開発された。そのうちの1つが、地元愛媛大学が世界に誇る「沿岸環境科学研究センター」というダイオキシンによる海洋汚染などに関する研究室の見学と授業だ。

当日、生徒達を乗せたバスが大学に到着すると、学生ボランティアが学内を案内し、研究センターまで誘導。授業は大学生レベルの内容だが、同研究センターの岩田教授が分かりやすく説明をしてくれた。生徒たちも真剣な眼差しで聞き入っていた。その後は、生物環境試料バンク「es－bank」と言われる、過去50年にわたり世界中から収集した動物達が冷凍保存されている日本屈指の施設へ移動。マイナス25度の巨大冷凍庫に入り、捕獲されたままの状態のイルカや海ガメなどを見学した。生徒たちにとっては見るものすべてが新しい驚きと発見だった。

世界最先端の科学技術はもちろん、研究をしている人たちの様子も知ることができる。大学というものを具体的に感じ取ることができるのも生徒たちにとっての大きな収穫となっている。

また、愛媛大学の研究成果を一堂に紹介した「愛媛大学ミュージアム」が平成21年11月にオープン。無料で立ち寄りが可能となっている。

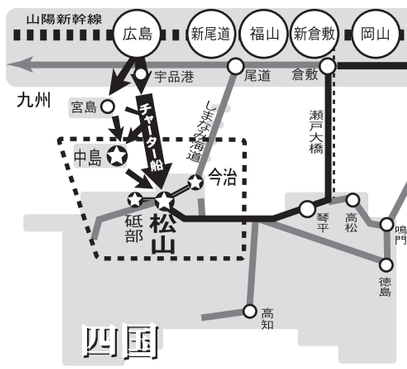
研究センターでは大学生レベルの内容も分かりやすく説明される

巨大な保管庫の見学

愛媛県松山市

体験学習メニューを学校と共同で開発

「本物の体験」「将来に生きる体験」を通した、人と地域に心と心でふれあえるまちを目指し、教育旅行の目的地として近年受け入れ実績を伸ばしているのが愛媛県松山市だ。旅行先の定番で毎年多くの学校が訪れている広島や関西に、松山を加えた新たなコースを「ゴールデンルート」と名付けて誘致。広島からの移動時間の短縮を図るためのチャーター船も用立てて、瀬戸内海に浮かぶ“みかんの島”「中島」での第一次産業体験や環境学習をはじめ、市内各エリアで松山ならではのメニューを提供している。その松山での体験学習の特色の１つが、学校と共同してメニューを企画、開発し、実施すること。学校からの細かな要望に添ったていねいな作り込みが好評を得ている。その取り組みを梅村学園三重中学校（三重県松阪市）の事例から見てみよう。



松山市の提案するモデルコース例

三位一体でベスト尽す

見学、体験、課題の洗い出しと改善

■下見段階から知恵を絞る

松山市では、学校からの連絡を受けると必要に応じて下見に同行。学校の希望する、あるいは市の提案する施設や体験メニューを教員たちに実際に見学、体験してもらいながら、課題を洗い出し、調整を行う。その場で解決できない課題があっても、深い話し合いを重ねることで、数日のうちには最善の案が導き出される。

こうして、受け入れる市と学校側が互いに知恵を絞ったオリジナルメニューが次々と誕生していくのだ。

梅村学園三重中学校は、平成19、21、22年度と松山方面で修学旅行を実施してきた。毎年、ゴールデンウイーク時期に担当教員が下見のため現地入りし、市職員と共に施設を見学したり、体験メニューに協力してもらう地元団体との協議を行ったりしている。

生徒達により良い体験をしてもらいたいと、1つひとつについて熱心に協議したうえで、手づくりの体験メニューが完成されていく。このため、松山市としても、万全の体制で修学旅行本隊を受け入れることができている。

■学校との強い信頼関係を築く

新たな体験メニューが次々と生み出されるのは、教員の熱意はもちろん、市職員や各施設の担当者が、学校と同じ意識で取り組む三位一体の姿勢が大きな要因だ。市職員や各施設担当者が熱心に考え、ベストを尽くす。それが生徒にとって素晴らしい企画を必ず導いてくれる。

三重中学校との例で言えば、市職員や各施設担当者が事前および事後学習に対応したものでないことから、今回のテキストは、実際の体験コースに添った構成で、十分に読みこなせるものにした。松山はいくの成功には、こういった工夫と努力が裏にあった。

一方で市にとっても、職員が作成していく中で、さまざまな資料を読みあさった結果、松山城をしっかりと案内できるまでに成長したことが大きな収穫となっている。

旅行を担当する先生方には、企画への想いが色々あるにもかかわらず、これまで実行できていない企画もあったと思う。それが実行できるのが松山だ。松山の教育旅行で、先生方には生徒たちが真剣に取り組んでいる姿を見たときの達成感、生徒達にとっては期待を超える大きな充実感を得られるはず。旅行にかかわる方々それぞれが満足のいく教育旅行の形が松山にはある。これまで培ってきたノウハウやネットワークに先生方の想いを注いでいただき、ともに成長することで、松山を舞台とした教育旅行が常に成長していけばと思っている。

道後のまちで「季語パネル」を探し、俳句を作る生徒

梅村学園三重中学校 体験メニュー その③

俳句のまちで松山吟行体験

俳句の基礎から実践へ

街中の吟行で商店主らと交流

21年度に生まれたもう1つは、俳句の「吟行体験」。近代俳句を築き、小説『坂の上の雲』の主人公でもある正岡子規を代表する俳句が盛んな地域ならではメニューだ。俳句の知識が必要なことから、市が中心となって要請し、地元で活動しているNPO法人の俳句甲子園実行委員会に協力を得た。同委員会は、毎年8月に松山で開かれる「全国高校俳句選手権大会」（通称「俳句甲子園」）を主催している。

体験内容は、まずは道後温泉近くにある子規記念博物館の見学により正岡子規について学んだのち、竹田館長からの講話を聞く。次いで、スタッフから簡単な俳句入門講座を受けたのち、吟行のため道後のまちへ繰り出す。

吟行では、道後温泉駅や道後商店街、道後温泉本館を散策しながら楽しくも真剣に俳句を作る。再び博物館に戻って、「句会ライブ」という形式で、作った句を相互評価。ライブ最後に挙手により最優秀句を決定する。参加者には句に合ったイラスト入り色紙がプレゼントされる。作られた全句は、松山市の設置している「俳句ポスト」に投函される。

平成22年度の実施では、生徒たちがより俳句を作りやすくするため、商店街の協力を得て、各店舗に並んでいる商品から事前に季語を探し出し、その季語を表示した「季語パネル」を各店内に設置。生徒達はまるで宝探しをしているかのように店舗を行き来し、商店主との会話も増えて、大いに盛り上がりをみせた。

俳句入門講座を受ける生徒

梅村学園三重中学校 体験メニュー その④

「松山はいく」松山城特別学習

重要文化財を直に体感

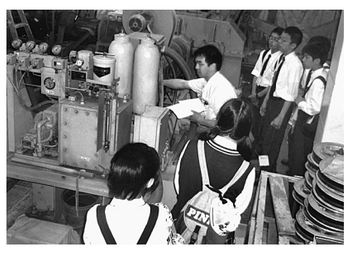
名城・松山城を徹底して学ぶ

「松山はいく」というまち歩きメニューは、平成22年度に新しく生まれた。俳句とハイキングを掛け合わせた造語で、第1弾として、松山城を徹底的に学ぶコースを設定した。現存12天守の1つで、日本で最後の完全な城郭建築の天守を有する松山城は、市内中心部の小高い山（標高132㍍）の上にそびえており、ロープウェイ・リフトで中腹まで昇るのが通常のコースとなっている。天守を持つ本丸、中腹に二之丸、麓に三之丸がある。現在整備が進められている三之丸は、かつての武家屋敷の区画に従い芝生公園として生まれ変わっており、そこから眺める松山城は絶景だ。

そこで、生徒たちはまず三之丸に集合し、専属ガイドの案内によって、かつての正門であった黒門跡から徒歩で頂上を目指した。途中、隠門続櫓や野原櫓といった普段公開されていない国の重要文化財に触れたり、登城太鼓や一ノ門開門の体験も行った。復路では、ロープウェイ機械室や操作室といった普段見れない場所を見学。麓にある東雲神社では、かつて能が盛んであった松山に残る能面や能装束などを特別に拝観した。

コース最後には松山城に関するクイズを実施。成績優秀者には後日、「松山城もの知り博士認定証」が贈られた。

親切な説明を受け「松山城もの知り博士」に


通常見られない場所も見学

コメント　学校＆松山市

先生がときめくプログラム実現

梅村学園三重中学校　校長　冨山眞　氏

修学旅行は、旅行会社からセットされた行程ではなく、教員の創意工夫で、教員自身が「ときめく」ことのできるプログラムを組んでいる。そのときめきを松山市では実現してくれている。先生たちが楽しい。それが伝わり、生徒も楽しくなる。

松山市は、松山城をはじめ文化的な財産のたくさんある素晴らしい街だ。毎年、市と共に新たな体験プログラムを開発している。訪問3度目の今年6月は、吟行体験、とべ動物園の見学などに加え、松山城の特別見学も行い、さらにグレードアップした。

平和学習を行った広島からしまなみ海道を通って松山市に入るが、その移動では常石造船所や大山祇神社の見学なども組み込める。

松山のプログラムはどれも一般には体験できないものばかりだ。市の方々の支援に感謝している。

学校のニーズをメニューに反映

松山市観光産業振興課　調整監　大崎修一　氏

松山市では、三重中学校をはじめとして学校側のニーズに応じたオリジナルメニューをできる限り可能にしたいと考え、スタッフ一同高い志をもって取り組んでいる。

旅行を担当する先生方には、企画への想いが色々あるにもかかわらず、これまで実行できていない企画もあったと思う。それが実行できるのが松山だ。松山の教育旅行で、先生方には生徒たちが真剣に取り組んでいる姿を見たときの達成感、生徒達にとっては期待を超える大きな充実感を得られるはず。旅行にかかわる方々それぞれが満足のいく教育旅行の形が松山にはある。これまで培ってきたノウハウやネットワークに先生方の想いを注いでいただき、ともに成長することで、松山を舞台とした教育旅行が常に成長していけばと思っている。

来島海峡 急流体験
急流観潮船
感動体験!!
日本三大急潮として有名な来島海峡!
世界初の三連吊橋 来島海峡大橋!
日本一の海事都市「今治」の造船所群!
料金 | 大島発
一般（中学生以上） | 1,000円
小学生 | 500円
小学生未満 | 無料
団体割引（10名以上） | 10%割引
さらに レストランでお食事される方はお得な割引
お問合せ・お申込みは 道の駅 しまなみ 愛媛県今治市片原町1丁目2番地
ご乗船 2日前までの ご予約・お問合せは
株式会社しまなみ TEL0898-25-7338 FAX0898-22-6857
ご乗船 当日と前日の ご予約・お問合せは
道の駅よしうみいきいき館（乗船券販売所・のりば） TEL0897-84-3710 FAX0898-84-3760

世界初 海の上を自転車で渡れるしまなみ海道
全室から来島海峡大橋が望める最高のロケーション。
レンタサイクルの他にも宿泊施設や研修室、大広間を完備。
多様な教育旅行や合宿など幅広くご利用いただけます。
財団法人 今治勤労福祉事業団
今治市サイクリングターミナル
サンライズ糸山
〒794-0001 愛媛県今治市砂場町2丁目8番1号
TEL 0898-41-3196
H P http://www.sunrise-itoyama.jp

子供たちにとっては一生に一度だから、
最高の経験をさせてやりたいなぁ。
今の旅行がマンネリ化しているけど、
「コレ」といった提案に出会えないなぁ。
広島方面への旅行を計画しているけど、
何か良い組み合わせコースはないかしら。
注目度 No.1　満足度 No.1
観光経済新聞「高校教育旅行特集」2年連続トップ掲載
旅行実施後の生徒アンケートで満足度95%を獲得
学校ニーズに合わせた体験メニューを共同開発
旅行を縁として松山の学校と学校交流に発展
体験メニューが授業カリキュラムに採用
旅行先変更への問合せ、下見、予約急増中！
①大切な「第一次産業」
感動交流！みかん農家や漁家での体験を通した島文化・島生活交流体験（@中島）
②環境問題は他人事？
めざせ地域のECO大使！環境浄化微生物「えひめＡＩ」を活用した実践型環境学習（@中島）
動物から学ぶ環境学習（@砥部）
※砥部焼体験との組み合わせが魅力的
③「明治」を体感！
『坂の上の雲』まち歩き体験（@松山）
子規のまち「俳句吟行」体験（@松山）
※俳都松山、俳聖正岡子規生誕の地
道後のまち散策体験（@松山）
加温加水のない名湯道後温泉と入浴体験（@松山）
道後温泉本館前記念撮影（@松山）
明治体感！人力車体験（@松山）
日本唯一！日露戦争要塞跡「小島」上陸体験（@今治）
※絶景「しまなみ海道」での橋上サイクリング、観潮船の組み合わせが魅力的
④これぞ、「和文化・和の作法」
日本最古を誇る道後温泉での「和文化・和の作法」体験（@旅館）
「道後の歴史」・「松山の文学」学習（@旅館）
広島（宮島）から約70分
瀬戸内海クルージング
チャーター船により、「広島（宮島）⇔松山」を短時間で結ぶ！（希望の時間に希望の場所へ）
ここが違う！
「いかに地域の人や文化にふれあうか！」に視点をあて、それぞれの体験メニューに「心と心のふれあい・交流」を練り込んでご提案します！
http://www.oidenka-matsuyama.com/
専用ホームページ
おいでんか四国松山　検索
専用パンフレット
「おいでんか 四国 松山」
※ホームページからダウンロードできます。
情報満載 必見！
新しい教育旅行へ 一歩前宣言！
松山市
産業経済部　観光産業振興課　修学教育旅行担当
〒790-8571　愛媛県松山市二番町四丁目7-2
TEL 089-948-6558　FAX 089-934-1764　E-mail kanko@city.matsuyama.ehime.jp